

刊夕日八廿月十



定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 五割 印刷費 別定
電話 六三〇〇
印刷所 常磐毎日印刷株式會社



オリナシ 秋 (2)

木津茂太郎

T—それから
幾日か過ぎました。
いよいよ十五夜がま
りました。
—その十五夜の晩の
ことであります。

雲が去来してゐる。
雲が去つて月が出る。
まるい美しい月。
田圃。——山に圍まれ
た田圃。月影が水のや
うである。
しばらく……

樹々の梢を移動しながら
見せる。轟々とした
凄いやうな森の樹立。
カメラ少し静かになる
と、次第に村の人家。
——まばらに、ある茅
の屋根。其處にも月影
が水のやうに流れてゐ
る。
柿の木。
まだ實は成つてゐない
お豊の家。(移動しな
がら見せる)

前が山で、その頂上に
は一本松がある。家の
後は竹林になつてゐる
おほきな茅屋根。白い
倉。立派な井戸端。
——等をカメラ静かに

うごく——
家の中。
お豊の母親が縁近く十
五夜さまへの捧げもの
をしつらへてゐる。机
三寶、その上に栗、柿
いもなど、また花瓶に
は薄や萩がいてゐる
父は奥の間で書き物を
してゐる様子——

ノット

鯛を柔
かく美味
しくするには、鯛三枚に
ついて、酒一合位とし、
たつぷりと一晚浸けて置
くと非常に柔かく、美味
しくなりま。

お豊の姿は見えない。
T—お豊ちゃんや。
と母が呼ぶ。
T—はい。
次の間から走つて来て
立つたま。

T—なあに
T—あのね、すまないが、
ろうそくが無いんだか
らね、町へ行つて買つ
て来てお呉れ。
T—お豊合点する。
T—お燈明に使ふらひさい
のだよ、いゝかい。
T—お豊合点する。
お豊、風呂敷を持つて
外へ出てゆく……
路。
お豊せつせと歩いてゆ

く。角をまがる。
田圃へ出てお豊歩いて
ゆく。
田圃。
十吉が立つてゐる。明
るい月を仰いでゐる。
——學校で綴り方の時
間先生から「十五夜」の
童謡を作つて明日持つ
てお出なさいと云はれ
て来たからだ。
T—十五夜の
十五夜の
十五夜の
お月さん、お月さん。
と、つぶやいたりする
そこへ来かゝるお豊。
T—お豊ちゃん。
お豊、歩くのを止める
下を向いて了ふ。
——明日の献立——
【朝】八ッ頭—みそ汁。
【晝】伊勢えび—車えび—
ぼらのフライ
【晩】こんやく—里芋—
生揚げのしめ
T—十吉もはづかし相にし
て、二三歩近寄る。
T—何處へゆくの!
T—お豊(半身)
T—あの、町へね、ろうそ
く、買ひに行くのよ。
T—十吉(半身)

T—町へ!——豊ちゃん町
へゆくの。
T—さうよ。
T—十吉とお豊並んで歩き
初める。
T—十吉(半身)
T—おいらも一緒に行くか
な。
T—お豊微笑んで、
T—十ちゃん、一緒におい
でよ、一緒にゆかうよ
T—うん、ゆかう。
T—ほんとに二人は歩き出
す。
T—何してたの、あんなと
こで。
T—童謡を考へてたの。
T—明日學校へ持つてくの
T—持つてゆくんだよ。
T—二人。(全身)

A—あの富豪が
足袋もはかず、
着物もなく、素
裸で居つた時の事を知つ
てゐるのは僕ばかりだ
B—へえ、それは何時頃
のことだね
A—湯に入つて居る時サ

笑話

大高富久太郎
青波のをまりて青き空氣な
り鳥飛びすぎし光のこれる
青々と光射えたつわだつみ
の音は空より降りゐること
し
澄みふかき海にてもらふも
の音をしづかにきけば空に
ひびけり



常磐歌壇

常磐歌壇
大高富久太郎
青波のをまりて青き空氣な
り鳥飛びすぎし光のこれる
青々と光射えたつわだつみ
の音は空より降りゐること
し
澄みふかき海にてもらふも
の音をしづかにきけば空に
ひびけり

ハヤ! 君!
いゝ冬服を求めたね
断然三二年型だよ
いやコレカネ!
例の……「ソレ」
正札堂
毎度御ひいき
有難ふ御座のます
うなぎの御用命は
平町田町(電話二二番)
ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

六三四電通場車停目丁四町平

運動靴は……
月星靴を
斯界の王實用無比
名入れ金具付き
サーピス
金四十五錢より
ゴム長靴は……
月星長靴を
堅牢優美で
かるいのが特色
小 八〇より
大 二〇〇より
製靴部
運動具部
大塚支店
平・田町電話七七番
市原醫院
平町 田町
電話一四四番

ツブシ・金銀
高價買入
修繕 迅速 丁寧 廉價
星野時計店
平三丁目駅前通り

磐城セメント會社特約店
久全屋商店
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり
磐城平町五丁目 電話九番九九番

藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

味覺の秋
骨ごとパリパリかじる
…小鳥のつけ焼…
中でウマイのはアオジロ、スズメ……
御酒によし御飯によし——御家庭にも一度
御試食を頂ます
鳥 菊
平町南町(電二八六)

政府買上米に

郡内農家氣乗り薄

條件が面倒で結局損を招く

政府の第一次買上米の締切は来月五日であるが磐城米の買上相場は五等一俵七圓四十七錢で現在平穀物検査所管内五等米の取引相場は七圓三十錢に較べると十七錢の高値であるが運賃荷造其他二十五六錢を要する爲め結局損を招くと見られ殊に検査が嚴重で代金の支拂は三月後とある爲め一般農家では氣乗薄で居る

昨年より坪當り

二合の減收

飯野村競作田

刈取りの結果

石城郡飯野村農會では去る二十日競作田の刈取りを行つたが本年の收穫量は平均して一石七斗二合で昨年の坪當りに比較すると二合の減收である

恩賜

就學獎勵

郡内交附金

石城郡内各町村に對する第一回恩賜就學獎勵金交附額は左の如くである

- (渡邊)十六圓十五錢(錦)
- 七十二圓九十五錢(入遠野)
- 六十二圓二錢(平)
- 百三十圓六十四錢(小倉)

左の如く決定された

- 平 (主將) 相馬
- 三浦 (主將) 渡部
- 笹森 今野

平商クラス對抗

辯論大會出場者

平商業學校辯論部にては来る三十日クラス對抗辯論大會を開催する筈の處都合に依り来る十一月六日に延期されたが各出場辯士は左の如くである

- (開會の辭)委員(皇道の威力)一年坂上浩(愛國心の必要)二年甲内海實(英語演說)四年山田正直
- 同一年磯部長一(大戦後のヨーロッパとアジア、二年根本健兒(自助)一年

商業組合法に就いて

商工研究會に矢野校長講演

既報平商業學校第一回商工研究會は昨夕午後七時半より同校に於て開かれたが出席者は三十二名にて互に質疑應答をなし矢野校長の商業組合法に就いての講演あり午後九時半閉會した因に

既報平商業學校第一回商工研究會は来る十一月十七日午後七時より二丁目庶民金庫樓上に於て開くと

青年學校庭球 磐城青年學校庭球部にては明日十九日午後一時より同校

住宅診 内科は何でも診療致します
呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所
電話一八一番
川井重子
川井安子

平第二校の手工入賞兒 既報平學校にては昨日より手工展覽會を講堂に開催したが入賞兒童は左の如くである

- (一ノ一)正木隆子 坂内
- 紀子(一ノ二)河田静子
- 金子愛子(一ノ三)中野雅
- 松本ミヨ(一ノ四)今宮英子
- 木村イミ(二ノ一)三井敬子 五十嵐愛子(二ノ二)高崎喜代子 鈴木
- 菊子(二ノ三)桑原貞子
- 有賀貞子(二ノ四)安濟喜代子 新妻信子(三ノ一)五十嵐シノブ 西尾隆子(三ノ二)關内満壽子 坂本チエ子(三ノ三)原つね子 田仲マサヨ(三ノ四)櫻庭美代 堀真喜(四ノ一)

漆器の御買入時 漆器は空前の大暴落を致して最低の御買入時です。漆器は空前的な暴落を致して最低の御買入時です。漆器は空前的な暴落を致して最低の御買入時です。

共榮漆器店
(平町三丁目36番郵便局裏通)
店員募集 三十才迄 小外 優遇

平第二校の手工入賞兒 既報平學校にては昨日より手工展覽會を講堂に開催したが入賞兒童は左の如くである

- (一ノ一)正木隆子 坂内
- 紀子(一ノ二)河田静子
- 金子愛子(一ノ三)中野雅
- 松本ミヨ(一ノ四)今宮英子
- 木村イミ(二ノ一)三井敬子 五十嵐愛子(二ノ二)高崎喜代子 鈴木
- 菊子(二ノ三)桑原貞子
- 有賀貞子(二ノ四)安濟喜代子 新妻信子(三ノ一)五十嵐シノブ 西尾隆子(三ノ二)關内満壽子 坂本チエ子(三ノ三)原つね子 田仲マサヨ(三ノ四)櫻庭美代 堀真喜(四ノ一)

耳鼻咽喉科専門 山内醫院 醫學士 山内享吉

私儀二十三日より左記の場所に於て耳鼻咽喉の診療に従事致し居り候間御眷顧之程奉願上候也

平町字中田町七〇番地(電話六九二)

耐寒体操 毎日二時間

平第二小學校にては来る十一月六日より二週間耐寒体操として各組主任指導の下に毎日二時間宛ラデオ体操聯合体操各教練を行ふと

第一職員辛勝 磐中職員對野球戰

醫院開業

二)大和田順子 端山多賀子(四ノ三)高木光子 關内義子(高一ノ一)鳥海和 山部クニ(同二)橋トヨ(同三)志賀ヒナ子(同二ノ一)藤田トメ 桐谷文(同二)小谷咲子 片桐好(高二)渡邊ユキ 吉田ハナ 長谷キヨ

科人婦・科外 院醫坂井 町田町平 番九五五話電

御眞影奉安庫跡に

平署の氏神を祀る

罪人の教化善導の上に

神明の加護を祈念する

明治節に式典

平警察署の前庭に在る郡役所時代の御眞影奉安庫は爾來

風雨にさいなまれて

朽ちるに委してあつたが小田部署長は是れを遺憾として右奉安庫に修理を加へ天照皇大神並びに明治大帝を合祀して同署の氏神に當てる事となり來月三日明治節を卜して午前十時より遷座祭を執行する由であるが當日は、山部子鐵倉社祠の嚴かな神祠奏上あり小田部署長外署員及び消防組

幹部其他有志等が參列玉串を捧げ内輪ながらの祭典に神酒を汲み合ふ事になつて居る因に小田部署長は語る

御眞影奉安庫の由緒ある物建を雨露にむしばましむる事は甚だ残念に思ひ署員に敬神尊祖の念を厚からしむる爲めにも祠に當てる事になつたのだが今後微罪等にて釋放する者等は此の神前に引連れて改愆を契はしめ教化善導の上に神明の加護を享くる事と致したく思つて居る

樂園の花に

ファンが熱狂

特に前賣券取扱ふ

東都樂園の新進花形メソソプラノ松原操嬢、セロ森屋比佐雄氏、ピアノ山田千代子嬢等一行が來平し廿一日午前中

學校方面の演奏を終へて午後六時から一般の爲め公開される平館の「音楽と映畫の夕」に出演すべきは既記の如くであるが此の

報一度傳はるやオール平のファン連は此の絶好の機會に聴き洩らしては大變と満員を豫期して

入場券の 前賣要求多數殺到する爰め特に左記各店に一枚卅錢の前賣切符を取扱はしむる事になつたと南町大谷理髮店 二丁目菊屋樂器店 同ウシク子

豚の注射に

出鱈目を流言

出所は一部の仲間人

石城郡夏井村役場では村内の養豚に豚コレラ豫防注射を行ふ事になつた處注射すると脊骨が曲るとか發育が止る等の流言が盛んになり大騒ぎとなり注射を回避する者が續出するので村當局でも捨て、置かず流言の出所を訊した結果一部仲間商人が流布せるものと解つた由

幼兒

河に溺る

石城郡好間村字川中子惣平三男猪狩完之(三)は昨廿七日午前十一時頃自宅裏夏井川畔で遊んで居た際誤つて河中に轉落約五十間餘を流されて溺死したと



明日の天気 今晩も明日も北西の風晴れたり曇つたり

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お話「坂上田村麿呂」室谷精四郎
後六、二五 英語講座 初等科(十六)岡倉由三郎
後七、三〇 講演「家庭教育上の御相談」福島縣須

賀川第一尋常高等小學校長渡邊文彌
後八、〇〇 新内「金村屋おさん」豊屋伊八二重帯名古屋結「富士松春太夫」
後八、三〇 ラヂオ風景「音に聞く美術の秋」演出土岐善麿其の他
後九、三一 日本棋院秋紛

學級週番

平商の試み

平商業學校にては自治訓練の爲め此程學級週番なるものを設け毎週各學年より一名宛交替せしめ級長の補助として學級内外の監督に當らしむる事になつた

相馬郷友歓迎

相馬郷友會は來月四日午後五時より住吉屋本店に於て開き伏見前平町長及び唯野平稅務署長の歡送迎會を催すとした

華やかな夢破れ

元女給路傍に病む

石城郡小名濱東町五十生坂本ミヅ(三)は昨日平町役場に行路病人として收容されたが同人は先月迄平町三丁目某カフェーに女給として華やかに働いて居たが心職を害して解雇され知人同の家を轉々して居たものであると

農業倉庫許可

既報 石城販賣利用組合の農業倉

東西大手合戦績 全國ニュース氣象通報 番組豫告

後二、〇〇 婦人講座 日本婦人としての社會的行動社會人として働いた古代婦人文學博士中村孝也
後六、〇〇 (子供の時間) 童話劇光の子演出胡蝶座
後六、二五 英語講座 中等科三ノ六田部隆次
後七、三〇 講演「續々日本はどうなる」法學博士下村宏
後八、〇〇 獨唱とテエロメソソプラノ松原操嬢チエロ森屋比佐雄ピアノ伴奏山田千代子

明日の部

前九、一〇 料理献立「牛肉の甘煮」松本良雄
前一〇、三〇 家庭講座 冬季に向ふ婦人の衛生醫學博士石崎伸三郎
後〇、〇五 ジャズ金星ジャズバンド指揮羽田軍治
後一、五〇 運動競技六大學野球リーグ戦試合状況早大對帝大一回戦

高坂居住雜夫根本市郎次も高坂坑内より銅線八圓餘を窃取して同く平署に取押へられた

八犯の賊を

格闘の上取押

戸渡君に捕賊賞與 石城郡内郷村の戸渡富治君は去る八月八日逃走中であつた窃盜前科八犯の嶋原留次郎を同村御厩地内で大格闘の上取押へたので本日赤木知事より金一封を贈られた

八ツ切事件

平館に上映

に稀有と稱せられる玉の井バラ(一)事件を劇化した「人生愛の犯罪」寂しい菊チャンの映畫が平館に到着したので同館は本日より三日間普通番組の外に是れを差加へて上映すると

銅線泥の

檢舉相次ぐ

石城郡内郷村字御殿山居住無職津川清登(三)は本月上旬より緩坑内に忍入り銅線十餘貫を窃取した事發覺本日平署に檢舉されたが同村

平職業紹介所報告 回人を求める方 回人を求める方 回人を求める方

△雑役 二十七才 尋三修 給料面談(好間村)

△雑役 二十七才 尋三修 給料面談(平町某)

△雑役 二十七才 尋三修 給料面談(好間村)

△雑役 二十七才 尋三修 給料面談(平町某)

△雑役 二十七才 尋三修 給料面談(好間村)

△雑役 二十七才 尋三修 給料面談(平町某)



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第百八十六席 平手造酒

政吉仲裁に入る

飯岡の料理屋鍋屋の主人は二階座敷が急に騒々しくなりましたから何事が始まつたかと来て見ると助五郎の身内と笹川の若い者が喧嘩をしてゐる、これは偉い事が出来たと仲裁に入つた

が聞き入れず、飯岡の若い者は與一に宇吉六藏の三人を無闇に打擲する六藏は大五郎に向ひ

六「さア殺せ、一と思ひに縊めて呉れ、ヤイ殺せ」と怒鳴る、この折鍋屋の表を通りかゝつたは助五郎の子分洲の崎の政吉、二階から殺せ殺せと云ふ叫び聲がするから、ズイと鍋屋の店に入つたが

政「何うした、大分二階が騒々しいが、客人が間違ひでもしたか」

と尋ねられて此家の女房

女「これは洲の崎の親分でございますか、今あなたの御身内衆と笹川の子分衆とが喧嘩をしてゐますよ、家の人止めに行きましたか、却々納りません」

政「そいつは困るだらう、よしおれが行つて引分けてやる」

と二階へ上つて見ると髪を亂し額から血をたらした若い者三人が夫へ打倒されてさア殺せと云つてゐる、それを神樂獅子に荒濱の勘太、地潜りの又藏、その他助五郎の子分が望み通り殺してやると打据えてゐる、



政「そんなことから間違ひが出来たかそれは知らねえが、相手は大分酔つてゐるまア待て」

と止めたが聞き入れないから、グイと大五郎の襟髪を取つてそれへ押へつけ

政「ヤイ大五郎、何故待てと云ふに待たねえのだ」

大「なアに、今止さうと思つてゐる所だ」

政「それなら何故初め云つた時に止さねえのだ、退け」

大「オイ、勘太、聞かぬか」

云はれて又藏に勘太、それに若い者は手を放す、時に六藏に宇吉に與一が

と柔かに云ふと與一が與「ウーム、洲の崎のが仲裁しておれの顔の立つ様にすると云ふならば任せてやりますか、一體何う云ふ風に顔を立て、くれませぬね」

政「それは今茲で云はれねえがわれも洲の崎の兄いとかまア助五郎の身内では立てられてゐる者だ繁藏どのの名前やお前達の迷惑になる様な事はしねえから、何も云はずは笑つてくれ」

と言はれて三人は、それではお任せしませうと茲で漸く此喧嘩は納まりましたが、政吉は大五郎初め身内の者を先に歸して三人の者へは傷の手當をいたし

政「勘太が持合せがねえからこれで忍耐しておくんないと思ふが、こんな所で飲んだ酒は旨くもあるめえ夫故どうぞ外で飲み直して下せえ、それから繁藏親分

うした誰でも構はねえ早く殺せ……」

にも政吉が宜しく云つた、何れ近い内に上りますと歸つたらさう傳へておくんないせえ」

と三人の前へ金を十五兩出した、六藏に宇吉に與一は助五郎の身内にしては惜しい子分だと内心政吉の志に感じてこれから笹川に歸る

と柔かに云ふと與一が與「ウーム、洲の崎のが仲裁しておれの顔の立つ様にすると云ふならば任せてやりますか、一體何う云ふ風に顔を立て、くれませぬね」

政「それは今茲で云はれねえがわれも洲の崎の兄いとかまア助五郎の身内では立てられてゐる者だ繁藏どのの名前やお前達の迷惑になる様な事はしねえから、何も云はずは笑つてくれ」

と言はれて三人は、それではお任せしませうと茲で漸く此喧嘩は納まりましたが、政吉は大五郎初め身内の者を先に歸して三人の者へは傷の手當をいたし

政「勘太が持合せがねえからこれで忍耐しておくんないと思ふが、こんな所で飲んだ酒は旨くもあるめえ夫故どうぞ外で飲み直して下せえ、それから繁藏親分

金銀

高價買入致します！

◎御修繕は

技術に絶対自信を持つ弊店へ

ダイヤ堂

鈴木時計店

平塚前通り

秋の味 秋の味 秋の味

カマエー吉原

テラ46

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電一七

磐城共濟病院案内

院長 醫學博士 石山謙

新製品

コーヒー通の待望せる

挽立コーヒーの快味

四半卦罐入 〇、三五

半卦罐入 〇、六五

コーヒー發賣

グアテマラ 二割五分 三種配合

ジャマカ 三割五分

モツバ 四割五分

速席挽立を差上げます

大勝園コーヒー部

電三九六番

玉屋洋品店

平町南町 電話六五六番